

温室効果ガス排出量集計結果報告【令和6年度実績】

1. 基準年及び目標数値

令和4年度を基準年度と定め、令和6年度より5年間で**1%の削減**を目標とする

令和4年度（基準年度）

令和10年度（目標年度）

523,378.0 (kg-CO₂) → 518,144.0 (kg-CO₂)

2. 令和6年度（5年目）における温室効果ガス排出量

559,951.88 (kg-CO₂)【基準年度比：**7.0%増**】

※詳細別紙

3. 検証

計画初年度である令和6年度は、基準年（令和4年度）に比べ浄化センターは**2.3%減**、最終処分場は**44.7%増**となり、両施設を合算すると**7.0%増**という結果となった。

浄化センターのA重油・灯油については削減に成功した。しかしその一方、最終処分場については、新施設（峯浜最終処分場）の完成により施設が切り替わったが、旧施設（崎無異最終処分場）の水処理棟は稼働を継続する必要があるため、電気や燃料は引き続き使用することから、今回は電気量について増加となった。

4. 対策

浄化センター及び最終処分場に持ち込まれるし尿等やごみの搬入量により、その適正処理に係る機器の稼働状況も変動するため、単純な電気使用量の抑制は難しいが、日々の処理工程のなかで大容量モーターの集約運転（発停の頻度を減らす）や、無駄のない工程を見直していくなどの工夫をするなかで排出量を削減する努力を引き続き継続していく。そして、電気に次いで割合の高いA重油（ボイラ・焼却炉）や灯油（暖房等）の使用についても節約に努める。

また、全体の排出量の大きさにより埋もれてしまいがちなガソリンや軽油の使用量なども無駄がないか毎年見直し、環境整備作業（草刈りや除雪）の効率化などを図り、第4次計画の目標を達成するために向けて引き続き努力していく。